

オフィスの予想パース

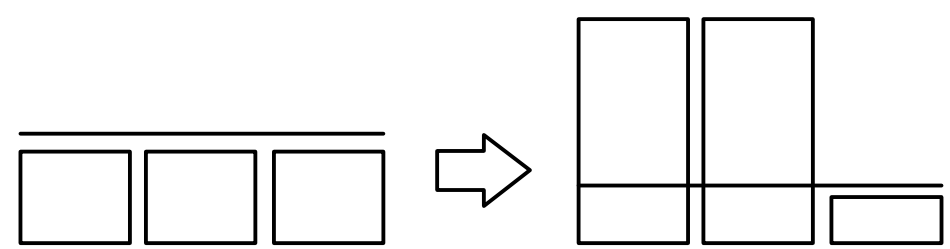


上空からオフィスを見た予想パース



01 コンセプト

「一つ屋根の下で働こう」というアイデアを基にすべての建築物を大屋根の下に収めるところから建物を考え始めた。経済面での集約や近隣の集合住宅の採光等に配慮した結果、一部を高層化することにし、一部を高層化した結果、屋根の上を使えることに気づいた。高くて大きな屋根を架けることでその下に気持ちのいいピロティをつくりだし、印象的な玄関口を目指した。



02 オフィスをつくる

医学、農学、防災、建築、土木、食品、気象、理化学など様々な研究機関が集まる研究学園都市、つくば。中心部竹園は都心に45分。農村に30分。研究所が集積し最先端の技術に触れられる環境と豊かな自然が会う場になっている。この地で様々な人々が共に働き、刺激しあえるようなオフィス空間をつくる。完全なフリーアドレスや平面的でないオフィス空間などを通じて「これからの働き方」を提案できるようなオフィスを目指す。

ON

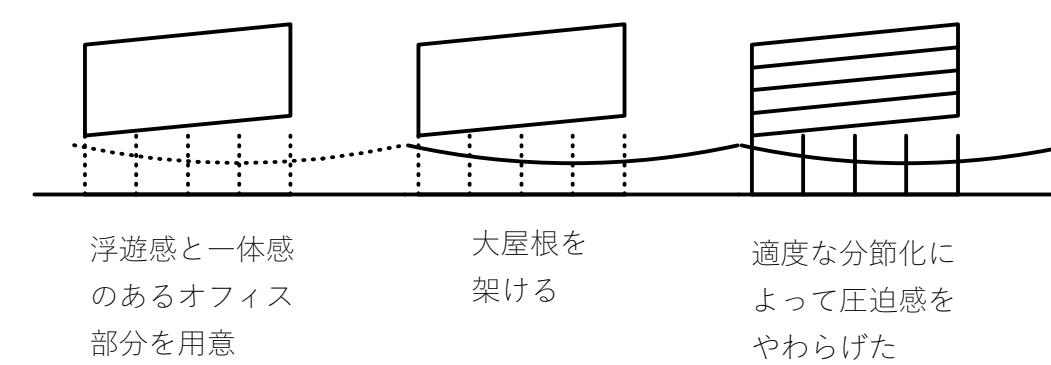
UNDER THE ROOF

つくば市の中心部竹園にみんなのための大きな屋根と心地よいオフィスが誕生します。様々な新技術を生み出してきた、この街のDNAを受け継いで、イノベーションの拠点を創ります。

筑波大学3年 清水宏樹

03 建物デザイン

建物デザインの特徴は2階部分に架けた巨大な屋根部分になっている。微妙に湾曲させ柔らかみを持たせた。建物とそのファサードは浮遊感と一体感を感じさせるデザインを目指している。大屋根の上にあるオフィス部分は傾斜のついた独特の形状になっており浮遊感を感じさせる。ファサードは組子調に仕上げた。



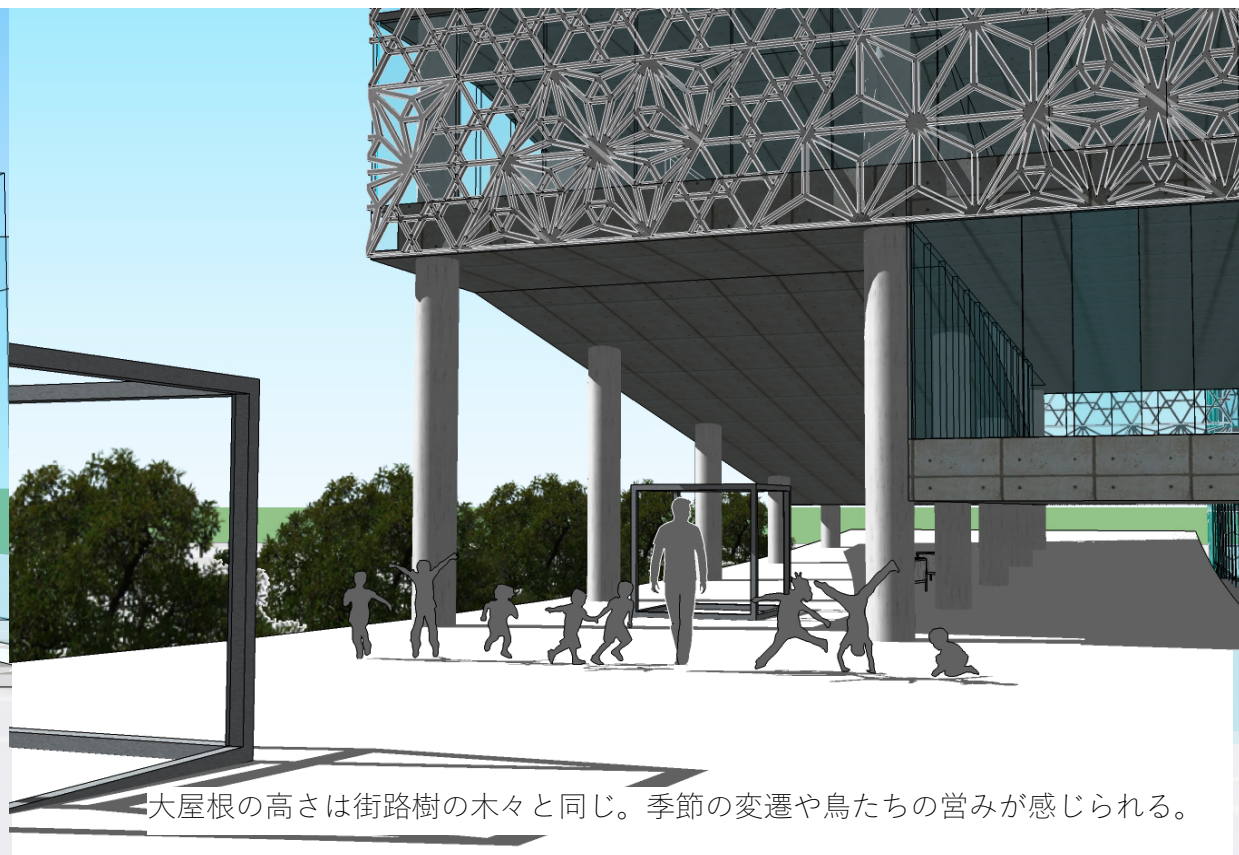
04 大屋根と子供達

中空に浮かぶ大屋根は上下にオープンな空間を生み出している。この空間にはカフェテラスや家具の置かれたサードプレイスとして使われる予定だ。つくば市は待機児童のいるまちだ。ここで働く人が安心できるよう託児所をつくった。大屋根は子供たちが安心して楽しめる最高の遊び場として機能する。もっと広い場所で遊びたければ竹園公園もすぐ近くにある。お昼ごはんは大屋根でお父さんやお母さんとお昼を食べられる。

建物は裏側にある東側採光の集合住宅に配慮して南側に寄せた



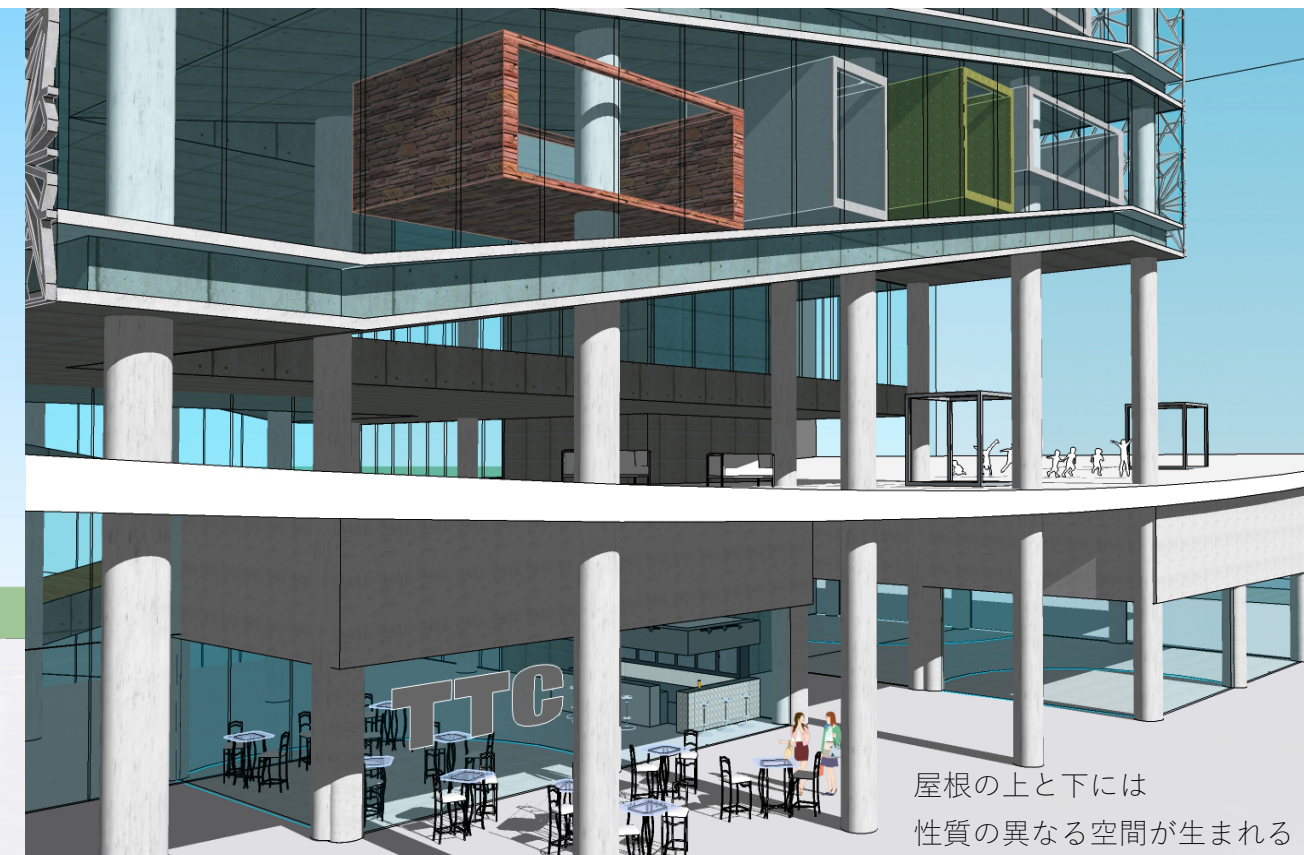
大屋根の高さは街路樹の木々と同じ。季節の変遷や鳥たちの営みを感じられる。



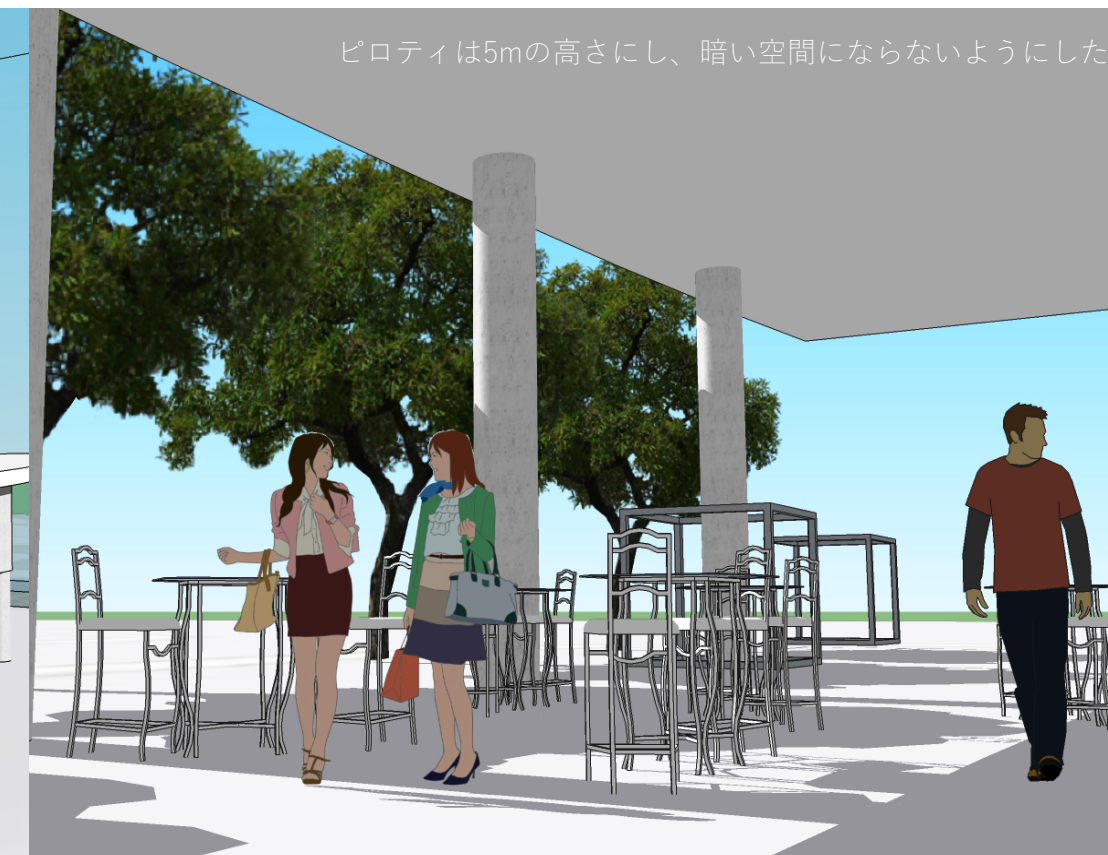
東側のオフィス部分は浮遊感が出るようなデザインにした



屋根の上と下には性質の異なる空間が生まれる



ピロティは5mの高さにし、暗い空間にならないようにした



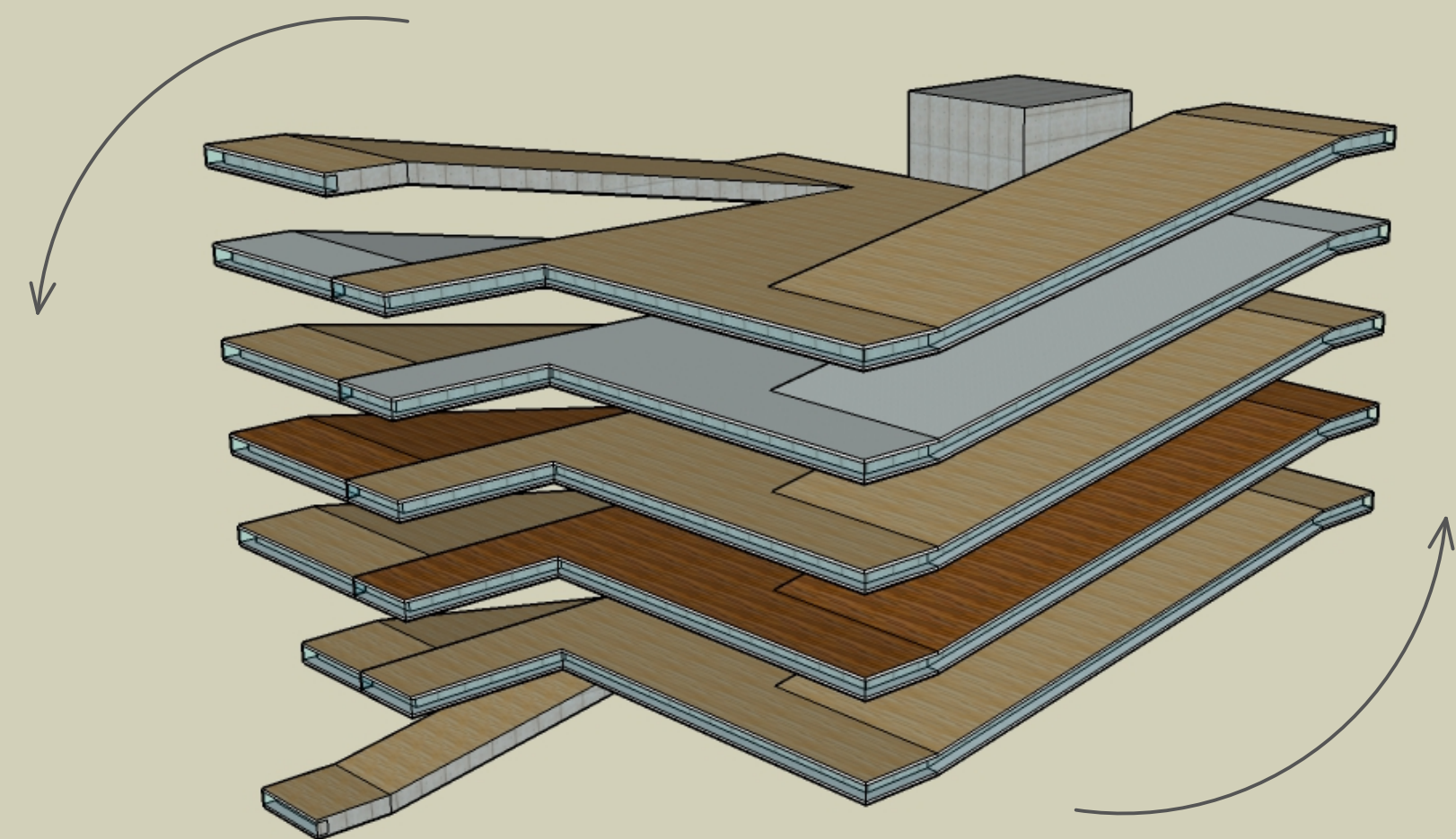
建設予定地



対象地

オフィス棟のフロア構造

全フロアが一続きになっており
螺旋状に上り下りできる



オフィスの断面



05 オフィスって何だ？

これまでオフィスとは「働きに行く場所」だった。自分の会社があり、自分の机があり、自分の椅子がある場所だった。しかしインターネット技術の進展に伴って、「働く」はどこでもできるものになった。家で働いても良い。カフェで働いても良い。公園で働いても良い。そんなこれからの時代に一体オフィスはどうあるべきなのだろうか。

06 人と知識が回遊する

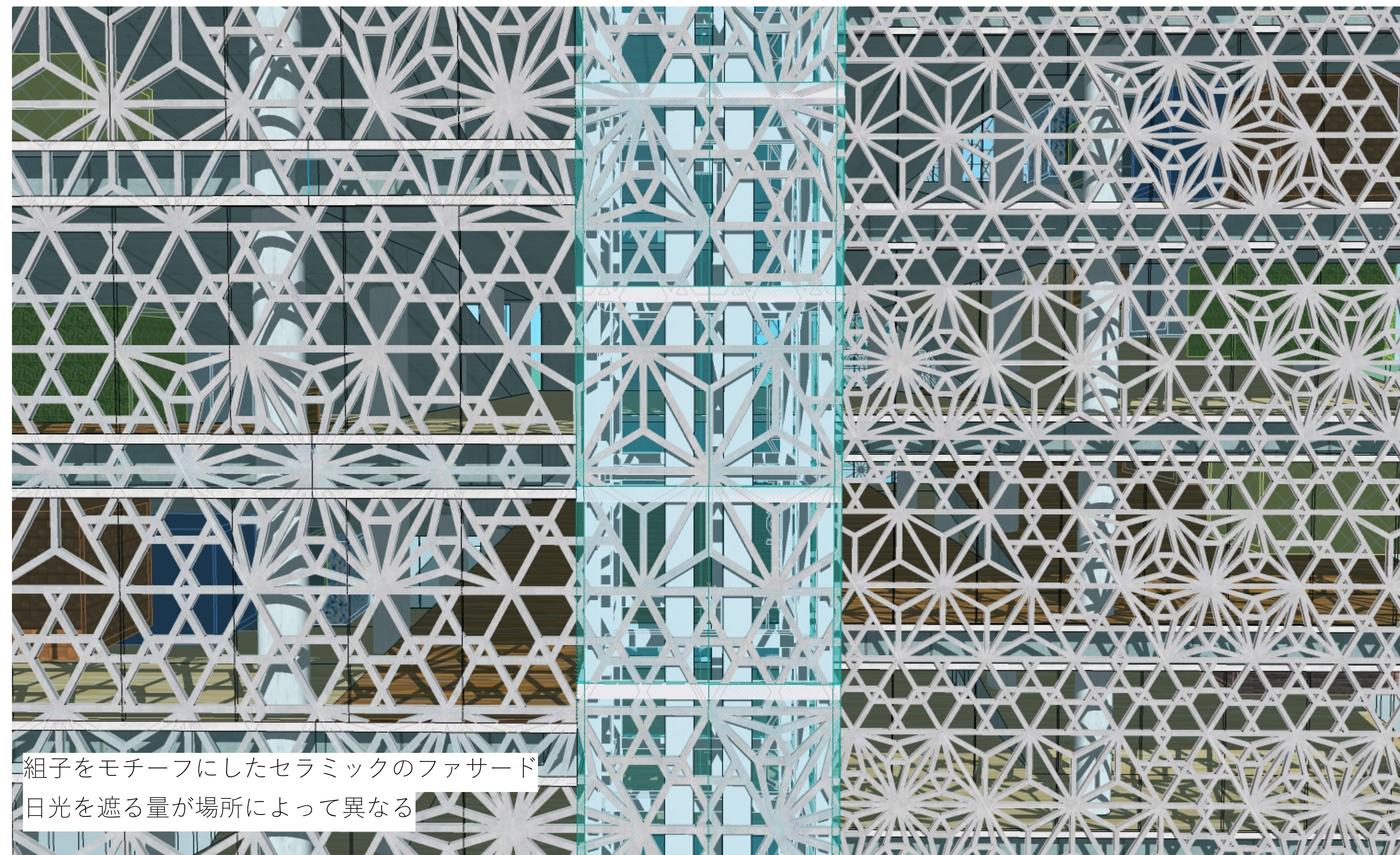
これからのオフィスに求められるのは様々な世代・職種の人と直接顔を合わせることができる、心地の良い空間ではないだろうか。事実、一人で働くよりも同僚と共に働いたほうが生産性が上がるという研究結果もある。時間をかけて悩んでいたことが、ふとした会話の中で解決することもある。様々な人が訪れ、その人々の知識を集積し回遊させるような空間を目指した。

07 フロアの境界を消す

このオフィスにはフロアの境界がない。1階から上まで螺旋状に登れるようになっている。各階の平面的なフロアにコワーキングスペース用意されており、上下階までの傾斜した空間にボックス上のプライベートスペースが配置されている。大事な会議や一人で集中したいときにはここを利用する。コワーキングスペースはリラックスできるようにしている

08 創造性を触発する

ここで働く人の創造性を刺激するため、ものづくりの意匠を凝らす。南北壁面はセラミックでできた組子風のファサードになっており組子のパターンによって漏れてくる日射量が変わる。自分の一番居心地の良い場所をつくることできる。また、1階には3DプリンターやVRマシンなどを借りることができる空間にし、定期的に芸術作品の展覧会なども行う。



組子をモチーフにしたセラミックのファサード
日光を遮る量が場所によって異なる

